

yamada@tku.ac.jp

東京経済大学 武蔵村山キャンパス
公開講座

昭和初期のポピュラー音楽を聴く

山田 晴通（東京経済大学）
yamada@tku.ac.jp

2018.03.17.

「昭和初期」とはいつか

- 昭和は西暦で … ?

1926年 12月25日



第二次世界大戦の敗戦



1945年8月/9月

1989年 1月 7日

「昭和初期」とはいつか

- 第二次世界大戦
 - ポーランド分割：1939年9月1日
- 太平洋戦争
- 大東亜戦争
 - 真珠湾攻撃：1941年12月8日（7日）
- 日中戦争 / 支那事変 / 抗日戦争
 - 盧溝橋事件：1937年7月7日
- 日中十五年戦争：満州事変：1931年9月18日

- 蓄音器とレコード（SP盤、78回転盤）の流通は明治末からあったが、普及が進んだのは大正期
- 昭和初期にはレコード業界の体制が新しくなり、質の高いレコードの国内生産が始まった
- 様々なもの（音楽以外を含む）が、従来よりも大量に商品化され流通するようになった

レコード業界の新体制

- 関東大震災(1923)は、国家経済にも大きな打撃となった
 - 様々な施策の一つが関税率引き上げ
 - 贅沢品は、「十割関税」となった
- 当時、蓄音器、レコード盤などは、贅沢品
- 輸入代理店→合併事業等による国内生産へ

レコード業界の新体制

- 関東大震災(1923)は、国家経済にも大きな打撃となった
 - 様々な施策の一つが関税率引き上げ
 - 贅沢品は、「十割関税」となった
- 当時、蓄音器、レコード盤などは、贅沢品
- 輸入代理店→合併事業等による国内生産へ

レコード業界の新体制

- 既に大正期のはじめから、国産蓄音器、国産レコードは存在したが、品質は輸入品より劣るものとされていた
- 日本人の吹き込みも、原盤を輸出してレコード盤を輸入する形をとることがあった
- 有力な輸入代理店は、関連のある外国企業と提携し、合弁や、技術提携によって、本格的な蓄音器、レコード製造に乗り出した

レコード業界の新体制

五社体制の確立

- コロムビア(日米蓄音器:1927)
- ビクター(日本ビクター蓄音器:1927)
- ポリドール(日本ポリドール蓄音器:1927)

- キング(大日本雄辯會講談社レコード部:1931)
- テイチク(帝國蓄音器:1934)

レコード業界の新体制

- 電気式吹き込みの導入
- 音質の向上

- 録音時のマイク使用
（電氣的増幅）
→ 声のニュアンスの
再現力の向上

レコード業界の新体制

- 電気式吹き込みの導入
- 音質の向上
- 廉価盤の発売
- 企画流行歌の登場

三井徹=監修(2005)

企画流行歌の登場

- それまでのレコードは、既に流行していた歌
= 流行歌 = を 録音 / レコード化 していた
- 新しい曲をレコードによって流行させる
= 企画流行歌
- ポピュラー音楽の定義づけの議論
「商品として生産、流通、消費されることを
目的とした音楽」

企画流行歌の登場

- 最初期の企画流行歌
- 二村定一(1900-1948)
- 浅草オペラ出身
- 当時の米国の流行歌を「ジャズソング」として歌う

『あほ空』『アラビヤの唄』(1928)
...天野喜久代とのデュエット

企画流行歌の登場

- 企画流行歌によって、ポピュラー音楽は新たな段階に入った
- 歌手、演奏者の人材確保
- 歌手の場合に顕著なパターン:
 - 音楽学校出身者
 - 芸妓
 - 大学出身者

音楽学校出身の歌手

- 藤山一郎, 1911-1993
- 東京音楽学校(現・東京芸術大学音楽学部)卒業
- 在学中にデビューし**停学処分**を受けるが、後に復学
- 1933年に卒業
- 流行歌歌手として戦後も活躍
- 国民栄誉賞(1992)

音楽学校出身の歌手

- 藤山一郎, 1911-1993
- デビュー当時は、古賀政男
作曲作品でヒットを飛ばす
『キャンプ小唄』
『丘を越えて』
(1931年)

古賀政男,
1904-1978

音楽学校出身の歌手

- 淡谷のり子, 1907-1999
 - 東洋音楽学校 声楽首席卒業
(現・東京音楽大学)
 - 卒業後、生活のために流行歌手となり、卒業生名簿から抹消される(後に復籍)
 - 歌手として戦前・戦中・戦後を通してながく活躍し、1993年まで新曲を吹き込んだ

音楽学校出身の歌手

- 淡谷のり子, 1907-1999
 - 東洋音楽学校 声楽首席卒業
(現・東京音楽大学)

- 当時、ジャズやシャンソンなどの
雰囲気をもよく表現するか主
として評価されていた

音楽学校出身の歌手

- 淡谷のり子, 1907-1999

『おしゃれ娘』(1936)

作詞 久保田宵二

作曲 服部良一

服部のコロムビア入社第一作

淡谷の才能は、洋楽の感覚に
長じていた服部の楽曲で、大い
に発揮される

→「服部ブルース」の成功

音楽学校出身の歌手

- 当時の音楽学校出身者にとって、流行歌の世界に足を踏み入れることは、危険な行為だった
- 成功した場合の金銭的報酬は、魅力的
- 楽譜のリテラシー（読譜力）がある、しっかりした歌い手への需要が成立していた
- クラシック音楽への屈折をもった場合も...

大学出身の歌手

- 戦前の高等教育進学率は1割に満たない
- 大学生、大卒者は特権的な存在
- 最先端の文化受容者でもあった
- 外国文化の摂取にも積極的な者がいた

大学出身の歌手

- ディック・ミネ(三根徳一),
1908-1991
- ・ 立教大学→逓信省
- ・ ジャズやハワイアンを消化し、独特の英語風の発音による歌唱が特徴だった
- ・ 在学中から、ドラマーとして録音のアルバイトをしていた

大学出身の歌手

- ディック・ミネ（三根徳一），
1908-1991
- ・ 立教大学→逓信省
- ・ 1935年に、自ら訳詞/編曲を手がけた『ダイナ』がヒットした
- ・ この曲は、多くの競作があった

「ダイナ」を歌った人たち

岸井明, 1910-1965

中野忠晴, 1909-1970 榎本健一, 1904-1970

大学出身の歌手

- 灰田勝彦, 1911-1982
- ハワイ生まれの2世
- 1922年来日、立教大学出身
- 学生時代から、兄・晴彦の
ハワイアン楽団で歌う
- ハワイアンから軍歌まで歌い、
戦前・戦中・戦後を通して活躍

大学出身の歌手

- ・ 灰田勝彦, 1911-1982
- ・ ハワイ生まれの2世
- ・ 1922年来日、立教大学出身
- ・ 「ハワイ生まれの江戸っ子」
- ・ 灰田勝彦については、
後ほど取り上げます

大学出身の歌手

(一部の)大学生などインテリ層は、米国はじめ各国の音楽動向を、レコードや楽譜を介して受容した、文化的エリート

大学出身の歌手(その他の芸能人)は、外国の音楽文化を日本的に摂取し、再生産するなかで、洋楽の日本化、土着化の最初の一歩を担った

Burton Crane, 1901-1963

- 本業は英字新聞記者
- コロムビアが外資系の時代に活躍
- 米国のポピュラー曲を様々な形で取り上げる

1931年

『酒がのみたい』

『ニッポン娘さん』

Burton Crane, 1901-1963

- 本業は英字新聞記者
- コロムビアが外資系の時代に活躍
- 米国のポピュラー曲を様々な形で取り上げる

日本語で歌う外人



二世歌手ブーム

日系二世の歌手

- 川畑文子, 1916-2007
- Alice Fumiko Kawahata
- ・ ハワイ出身、カリフォルニア育ちの三世
- ・ 1933年末の日本劇場
柿落としの主演

乗越たかお(1999)

日系二世の歌手

- 川畑文子, 1916-2007
- Alice Fumiko Kawahata
- ハワイ出身、カリフォルニア育ちの三世

『あなたとならば』

(1935年)

日系二世の歌手

- ・ 女性歌手が多く、少女歌手、アイドル的存在でもあった
- ・ 米国のポピュラー音楽が「ジャズ」として普及する過程に貢献した
- ・ ハワイ出身者が多く、**ハワイアン音楽**の浸透にも貢献した

日系二世の歌手

- チェリー・ミヤノ
スィート・ジェニー・リー
Sweet Jennie Lee
(1935年)

日系二世の歌手

- ニッポン・ベティ・ブープ
(アリス濱田)
恋の思案顔
(1934年)

日系二世の歌手

- 日英混血の英国生まれ
- マーガレット・ユキ
オ人形ダイナ
(1936年)

灰田勝彦

- ハワイアン音楽の普及に貢献した灰田兄弟
- 灰田晴彦とモアナ・グリー・クラブ
- ビクター入社後には、
ジャズやカントリーなど
も含む米国の曲の日本
語版もよく録音した

灰田勝彦

- 『ハワイのセレナーデ』(1935)
作詞 佐伯孝夫、作曲 灰田晴彦
...ビクターからのデビュー曲
- 『ブルームーン』(1935)
訳詞 永田哲夫
“Blue Moon” 1933: 映画の主題歌として作られた
- 『真っ赤な封筒』(1937)
訳詞 佐伯孝夫
Premier Quartet “Oh By Jingo, Oh By Gee” 1920

灰田勝彦

- 「退廃的」テーマの曲や、外国曲も取り上げながら、軍歌～戦時歌謡の類も録音した
- 『雨の酒場』(1937) **発売中止命令**
作詞 佐伯孝夫、作曲 佐々木俊一
- 『僚機よさらば』(1937)
作詞 奥野椰子夫、作曲 佐々木俊一

灰田勝彦

- 1940年の時点でも、多様な曲を録音
既に淡谷は録音ができなくなっていた
- 『青春のタンゴ』(1940)
作詞 佐伯孝夫、作曲 山田栄一
- 『青春グラウンド』(1940)
作詞 佐伯孝夫、作曲 佐々木俊一
- 『燦めく星座』(1940)...詞を変え再発(1943)
作詞 佐伯孝夫、作曲 佐々木俊一

灰田勝彦

- 1940年の時点でも、多様な曲を録音
既に渋谷は録音ができなくなっていた
- 『これやさの音頭』(1940)
作詞・作曲 灰田晴彦…英語の歌詞
- 『お玉杓子は蛙の子』(1940)
ハワイ民謡の旋律にのせたもの
- 『モアナうるわし』(1941)
作詞 宮崎博史、作曲 木暮正雄
…戦前最後の和製ハワイアン

灰田勝彦

- 1941年、日米開戦後、ハワイアンは禁止に
- 便法としての「南方歌謡」

歌上艶子と『マニラの街角で』(1942)

作詞 佐伯孝夫、 作曲 清水保雄

大谷冽子と『ジャワのマンゴ売り』(1942)

作詞 門田ゆたか、 作曲 佐野 鋤

『バタビヤの夜は更けて』(1943)

作詞 佐伯孝夫、 作曲 佐野 鋤

灰田勝彦

- 1941年末、日米開戦後、ハワイアンは禁止に
- 戦前の灰田を代表する名曲

『新雪』(1942) タンゴ 登山=学生文化

作詞 佐伯孝夫、 作曲 佐々木俊一

『鈴懸の径』(1943) ワルツ 学生生活

作詞 佐伯孝夫、 作曲 灰田晴彦

学徒出陣の学生がよく歌ったという

灰田勝彦

- 戦時下の灰田は、積極的に慰問に参加
- 徳川夢声の日記によると
どこへ行っても、女性に
大人気であったという

徳川夢声, 1894-1971

灰田勝彦

- 『シューベルトの小夜曲』(1943)
- 日本を代表するタンゴ楽団が、
ハワイアン歌手・灰田を迎えて、
同盟国ドイツのクラシック音楽に
日本語詞をつけて録音したもの

桜井 潔, 1911-1961

灰田勝彦

- 『加藤部隊歌(加藤隼戦闘隊の歌)』(1944)
- ・ 加藤部隊は日米開戦後初期に活躍した実在の部隊～部隊長加藤は1942年に戦死
- ・ 映画『加藤隼戦闘隊』(監督 山本嘉次郎)
主題歌
- ・ 灰田の戦時中最後の録音であり、
- ・ ビクターの戦時中最後のレコードの一つ

灰田勝彦

- 『加藤部隊歌(加藤隼戦闘隊の歌)』(1944)
- ・ 灰田の戦時中最後の録音であり、
- ・ ビクターの戦時中最後のレコードの一つ
- 軍に協力的だった灰田は戦時中にも録音し、それぞれの時点で可能な範囲の表現を残した
- それも徐々に窮屈なものとなっていって

「対称的」な軌跡

- 軍に非協力的だった淡谷は戦時中には録音させてもらえず、中国戦線などの慰問や、対米謀略放送に動員された
- 軍に協力的だった灰田は戦時中にも録音し、それぞれの時点で可能な範囲の自己表現を残した

二人とも戦後も大活躍した

「対称的」な軌跡

- 軍に非協力的だった淡谷の戦時中の逸話は過剰に美化されていないか？
- 軍に協力的だった灰田は戦争責任を追求されるべきだったのだろうか？
- 歌い手には「思想」が要求されるのか？

おわりに

- 今、昭和初期のポピュラー音楽を聴く意義
- 「懐かしい」音楽 / 歴史として「学ぶ」音楽
- 新旧無差別に並べられたものの一つとして
聞く楽しい、今の私にとって新しい音楽
- その音楽が窒息させられていった歴史

今回はここまでです

- ご静聴ありがとうございました。
- ご質問は、どうぞご遠慮なく。
- 持参している音源で可能な範囲でのリクエストもお応えしたいと思います。

yamada@tku.ac.jp

